

# さぬきうどんの始祖

さぬきうどん研究会

吉原良一氏(吉原食糧社長)が講演



化的、技術的活動を行つて  
いる「さぬきうどん研究会」  
(諏訪輝生会長)は、十月十  
五日、高松市の香川県社会  
福祉総合センターで『さぬ  
きうどん文化の過去・現  
在・未来』をテ  
ーマに講演会  
と座談会を開  
催、同研究会  
の会員や一般  
客など約四〇  
名が参加し  
た。

講演は、①  
讃岐うどん文  
化の世界への  
発信へ海外出  
店(有田も屋・  
史実からさぬ  
きうどんの歴  
史をひもとく  
承し発展を図るために、文  
さぬきうどんの伝統を繼

黒川保社長(2)畑作と小麦  
の歴史及び石臼製粉からみ  
た「さぬきうどん」の始祖の  
考察(吉原食糧・吉原良一  
社長)——の二講が  
行われ、なかでも吉原社長  
は、讃岐の小麦生産はいつ  
頃どのように始まったのか、  
なぜこの地域でうどん文化  
が発達したのかを歴史の資  
料を基に考察した内容を披  
露し、史実からさぬきうど  
んの歴史をひもといた。

同氏は、うどんの発達に  
は「小麦・川・水車(石臼)」  
の各要素が不可欠であるこ  
と、麺文化として、「寺院の  
斎食(儀典)」「門前町参道  
等の飲食」「庶民の食習俗」  
を分けて考える必要がある  
のではと提起した。讃岐の  
小麦づくりは秦氏(はたう  
じ)によって六世紀頃に朝  
鮮半島から焼畑・定畑の技  
術と共に伝わった可能性を  
指摘、秦人が多く住んでい  
た地方は大和・山城・河内・  
摂津・和泉・近江・美濃・若  
狭・讃岐・伊予などであつた  
とされ、当時から香川と愛  
媛地域は大陸からの先進的  
な畑作技術が導入されてい  
たことが想像できるとし  
た。仁和二年(八八六年)、  
讃岐・龍燈院すぐ横を流れ  
る綾川に実在した水車(寺  
車)の記録があり、行基や空  
海などの日本で最高位の大  
師が開祖した寺院であるこ  
とに使つていた可能性があ  
ることを示し、平城宮址か  
ら発掘された木簡(もつか  
ん)には「讃岐国」及び「秦」  
の文字を記したもののが一〇  
点近くあり、平城宮に穀物

耕地という事情により悲惨  
とも言える農民の生活の中  
から、庶民の食風俗として  
のさぬきうどんが生まれた  
のではないかと論じた。  
座談会では、さぬきうど  
んと香川県産小麦「さぬき  
の夢」の普及に重要な役割  
を担つた元香川県農業試験  
場の多田伸司氏、元香川県  
農業改良課の大熊千鶴子  
氏、さぬき麺業(株)社長の香  
川政明氏が登壇し、吉原氏  
と黒川氏を交え、「さぬきう  
どん文化の過去・現在・未  
来」についてそれぞれの立場  
で経験して得た持論や、さ  
ぬきうどんの将来について  
の考え方述べた。

と品質レベルを持つていた  
ことが近代に「麦王国・讃  
岐」と言わしめる基礎とな  
つたと考えられるとした。  
近代に移り、江戸期から  
の讃岐の水車の設置台数の  
推移を示し、全国でも有数  
の小作農比率の高さと狭い  
耕地という事情により悲惨  
とも言える農民の生活の中  
から、庶民の食風俗として  
のさぬきうどんが生まれた  
のではないかと論じた。  
座談会では、さぬきうど  
んと香川県産小麦「さぬき  
の夢」の普及に重要な役割  
を担つた元香川県農業試験  
場の多田伸司氏、元香川県  
農業改良課の大熊千鶴子  
氏、さぬき麺業(株)社長の香  
川政明氏が登壇し、吉原氏  
と黒川氏を交え、「さぬきう  
どん文化の過去・現在・未  
来」についてそれぞれの立場  
で経験して得た持論や、さ  
ぬきうどんの将来について  
の考え方述べた。